

1学年だより

令和3年9月17日(金)

夢の宅配便

1学年主任

水野 喜代治

連載「きっかけ！」

第1話…くす玉を割っちゃう

小学校低学年時代のキヨたん！

小学校時代、私はまるっきり出鱈目な児童で、授業には殆ど出席しないで、毎日のように校庭で遊んでいました。先生が注意しようと近づくと全力で逃げていました。つかまると、先生に説教されて、教室に戻されます。しかし、また次の時間には外で遊んでいるというような生活でした。こんな生活ぶりなので、学力は身につかず、掛け算の九九も満足に覚えていませんでしたし、漢字もまともに読めず、国語の教科書などは、漢字は、曖昧に発音して、ひらがなを大声で読むので、教室中が笑いの渦になっていました。

私は、3歳の時にトラックに父親が跳ねられて、父を失いました。トラックはそのまま逃走したので、ひき逃げ事件として未だに犯人はわかっていません。この父親の突然の死が水野家の運命を大きく変えました。私は四男なので、母は、突然、一家の大黒柱となって、長男は小学校6年生、四男の私は3歳、という4人の子どもたちを一人で育てることになったのです。私を曾我保育園に預けて、母は仕事に向かいました。母は小学校の調理員として給食を作って、私達を育てました。入学式も授業参観も運動会も母は、仕事を優先して学校に顔を出すことはありませんでした。「喜代治ごめんね！、お母ちゃんは、お父さんがいないのだから、その分、一生懸命に働かないといけないんだよ。だから喜代治は、お母ちゃんが学校に行けないけど、頑張らなければならないんだよ！」とよく言われました。「お母ちゃん、任しておいて。僕は、学校でいい子にしてるからね。安心して！」と母に言っていました。しかし、実際の学校生活は、私

には、運動会もただ寂しくつまらない行事でした。お昼のときに、みんなお母さんと美味しいおにぎりや唐揚げを食べているのに、私はジャングルジムの上に登ったり鉄棒で一人で遊んだりしていました。運動会の徒競走で1位になった友達が、学校からもらった赤いリボンをおにぎりを食べながら自慢気にお母さんに見せていました。それを見ていると、悲しくて、寂しくて、つまなくて、自分の胸にもついてた1位のリボンを外して捨ててしまったこともありました。小学校3年生のころには、運動会の練習もボイコットして、

運動会の当日に、早く登校して、いたずらでくす玉を割って叱られたこともありました。こんな私が、一つのきっかけで運動会を開会式から閉会式まで真剣に真面目にやり、授業も抜け出さなくなるのです。そのきっかけとは……つづく

